

# 十勝地域のサイクルツーリズム推進 に向けた取組みについて ーナショナルサイクルルート「トカプチ400」の取組事例ー

帯広開発建設部 道路計画課 ○天池 竜輔  
草間 祥吾  
深谷 弘明

十勝地域では「世界最高水準のサイクルツーリズムの進展」を目的に、自転車関係団体や民間事業者団体（観光協会、商工会議所等）、行政機関で構成する「北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会」を設立し、走行・受入環境の整備など官民一体となり連携・協働した取組みを進めている。本論文では、ナショナルサイクルルート指定となった十勝地域の基幹ルートである「トカプチ400」の取組事例について報告する。

キーワード：サイクルツーリズム、地域連携、ナショナルサイクルルート

## 1. はじめに

我が国では、近年の健康志向や環境意識の高まりから自転車利用が増えており、特にロードバイクをはじめとしたスポーツタイプの自転車利用が多くみられるようになった。こうした背景を受けてサイクルツーリズムも各地域で盛んに取り組まれるようになってきた。

このような中、2018年に自転車活用推進計画が策定されたことを受け、翌2019年には、日本を代表し世界に誇りうるサイクリングルートについて国内外へPRを図ることを目的に「ナショナルサイクルルート（以下、NCR）」制度が創設された。

第1次NCRとして3路線が指定されてから約2年後の2021年5月、第2次NCRとして「太平洋岸自転車道」、「富山湾岸サイクリングコース」と並んで、北海道初のNCRとして「トカプチ400」が指定を受けることとなった（図-1）。

## 2. ルートと協議会の概要

### (1) ルートの概要について

トカプチ400は、帯広市を起終点として上士幌町から大樹町までを8の字で結ぶ、十勝管内12市町村を通過する403kmのルート（図-2）で、「北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会（以下、協議会）」の前身となる「十勝サイクルツーリズム研究会」によって2017年に設定されたルートである<sup>1)</sup>。ロゴマー



図-1 ナショナルサイクルルートの指定

クの緑から青のグラデーションが表現するように、山から海まで十勝の大自然の様々な地形を楽しめるルートとなっている。

### (2) 協議会の概要について

協議会については、学識経験者が会長であった研究会の体制から、地域の方々が主体となって活動できる体制を構築するため、会長・副会長を地域でサイクルツーリズムに関わっている方に担って貰うこととした。協議会の運営にあたって、研究会から引き続き帯広開発建設部が事務局を担っている。

協議会の下には、トカプチ400を安心・安全に走行

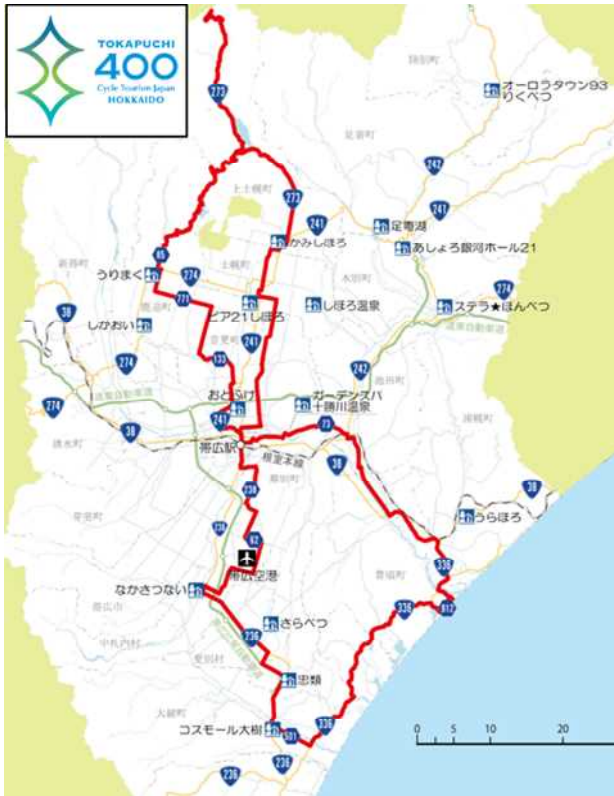


図-2 トカプチ400のルート図

するための案内表示や注意喚起案内の設置を行い走行環境の向上を目指す「走行環境」、トカプチ400沿線のサイクルステーションの拡充や手荷物輸送、レンタサイクルの充実、サイクルイベントの開催など、サイクリストの受入環境向上を目指す「受入環境」、トカプチ400を道内、道外、海外へPRし、十勝への来訪者を増やすためのツール作成やツールの展開方策を検討し、効果的なPR活動を行い誘客につなげる「PR・誘客」の3つの部会があり、実質的にこの部会において各種取組みの具体的な検討や協議を行っている。走行環境部会は自治体を含む道路管理者が中心となり、受入環境やPR・誘客部会については地元の自転車関連団体、事業者が主体となり、観光協会やシーニックバイウェイの取組団体等で構成される。また、今後はこれらに加えてトカプチ400と連携して取り組むバイプレーヤーとして、後援・協賛する企業を募って活動を進める予定である。

### 3. サイクルツーリズム環境向上に向けた取組み

このような各部会を中心としたメンバーにより、トカプチ400と十勝地域におけるサイクルツーリズムの環境向上に向けて各種取組みが行われている。ここでは、最新の取組状況について紹介する。

#### (1) 走行環境向上の取組み

走行環境向上の取組みとして、基幹ルートであるトカプチ400において、NCR指定審査の認定水準は満たし

AMAIKE Ryusuke, KUSAMA Syogo, FUKAYA Hiroaki



図-3 NCR指定前後の案内看板デザイン  
(左：NCR指定前、右：NCR指定後（検討段階のもの）)



図-4 分岐部での案内表示

ていたものの、整備として不足していた路面表示や案内看板の設置に向けて、各道路管理者で調整を行っている。案内看板についても、NCRの指定を踏まえてトカプチ400とNCRのロゴが入ったものへの見直しを検討（図-3）するとともに、自転車利用者が視認しやすいサイズへの見直しを検討している。また、分岐部においては、方面を明記した案内表示（図-4）とすることで、安心して走行できる環境の創出を図っている。さらにトカプチ400のルート上には河川管理用通路があることから、河川管理者等の関係機関と連携し案内表示の整備を行っている。

また、トカプチ400のNCR指定を十勝観光の起爆剤として捉え、協議会としては各地域ルートが連携する仕組みを構築し、管内全体の取組みとして広げていくための活動を行っていく予定である。具体的には、十勝管内の自治体等で設定した、各地域の魅力や個性をつないだサイクルルートを「地域ルート（図-5）」として登録するため、部会において公募要項を作成し、2022年度からの運用を目指して検討を進めている。トカプチ400の地域ルートの特徴は、基幹ルートが通過していない市町村でも、基準を満たしていればトカプチ400との連携を図ることができるようにした点や、十勝地域ではマウ



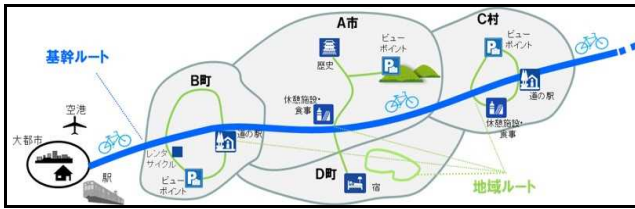


図-5 基幹ルートと地域ルートのイメージ

ンテンバイク等によるオフロードコースも魅力の一つであることから、オフロード向けの基準も設定し、地域ルートとして指定できる仕組みとしている点である。

この他にも、NCRの利用状況（自転車交通量）を継続的に把握し取組みの効果を分析するため、トカプチ400ルート上に計測装置の設置を行った（図-6）。今後自転車交通量を見ていくことで、サイクリストの増加等を確認し分析を行っていく。

さらにNCR指定後も、トカプチ400を実際に走行したサイクリストからの意見を踏まえた課題の精査や、路面状況確認のための現地調査を実施し（図-7）、快適な走行環境を維持するための活動も継続して行っている。



図-6 自転車交通量観測用センサーの設置状況

## (2) 受入環境向上の取組み

受入環境向上の主な取組みとして自転車にやさしい施設や宿を利用者にわかりやすく提供する①サイクルステーション・宿泊施設の登録制度、②民間事業者や運送事業者と連携した移動サポートの検討、③緊急サポート体制強化を行っている。

①トカプチ400ルート上のサイクルステーションや宿泊施設の整備状況について、エリアによってばらつきがありNCR必須要件を満たす設置平均間隔を満たしていない箇所もあるため、サイクルステーション・宿泊施設登録制度により施設数の増加を図る予定である。サイクルステーションの登録制度については、これまで自治体や事業者で独自に行っていたものがあつたが、NCRの指定を契機に1つに統合するとともに、NCRの基準に倣ったグレードの見直しを図るものである。登録制度の創設に際しては、各観光協会を通じて事業者アンケートを



図-7 路面状況確認の現地調査

配布し、現状のサービス水準や制度登録への意向把握を行うとともに、サイクルステーション・宿泊施設登録のメリットについての情報提供を行う予定である。今後の活動としては、サイクルステーション、宿泊施設の増加だけでなく、既存施設の機能強化を図る予定である。

また、登録制度を進める以前から帯広市内にあるホテルでは自転車格納設備付きの部屋を用意し、サイクリストが安心して宿泊できる施設を整備するなど、管内でもこのような動きが出てきている。

②移動サポートの検討については、レンタサイクル事業者とバス事業者が連携することで、帯広空港と帯広駅バスターミナル間においてレンタサイクル利用者が手ぶらでサイクリングを楽しめる「手ぶらレンタサイクル」の導入が図られた（図-8）。レンタサイクル料金の他に



図-8 手ぶらレンタサイクル



バス乗車券（荷物輸送料）と手ぶらレンタル手数料（自転車の輸送、回収料に充当）を支払うことで、各事業者が持続的に取組むことができる仕組みである。

③緊急サポート体制強化については、管内を巡回している道路や河川のパトロールカーに空気入れと自転車工具を搭載し、巡回中にアクシデントに見舞われたサイクリストをサポートするものである。これまで一路線のみでの導入であったが、体制強化のため帯広開発建設部が管理する全路線での導入に拡大した。導入に際しては、スタッフに対して協議会メンバーによる自転車工具の基本的な使い方についての講習会を開催し、自転車に対する知識と理解を深める機会を設けた（図-9）。



図-9 パトロール車への工具等搭載と講習会の様子

### (3) PR・誘客向上の取組み

トカプチ400を道内、道外、海外へPRし、十勝への来訪者を増やすためのツール作成やツールの展開方策を検討し、効果的なPR活動を行い誘客につなげることを目的としたPR・誘客向上の取組みを実施している。

主な取組みは、①トカプチ400独自のHPによる情報発信、②事業者間連携の促進、③サイクルイベントの開催を行っている。

①HP作成については、NCRの指定に向けた取り組みとして、協議会においてトカプチ400独自のHPを開発した (<https://www.ct.jguide.com/>)。HPではルート周辺の魅力的な資源や協議会での各種取組みの紹介を行うとともに、GooglemapやRide with GPSといった既存のアプリを介した情報提供を行うことで、利用者が使いやすく、管理者側の施設情報等のデータベース更新も容易にし、トカプチ400を訪れた人が安心して十勝の自転車旅を楽しめることをコンセプトとした情報提供を行っている（図-10）。

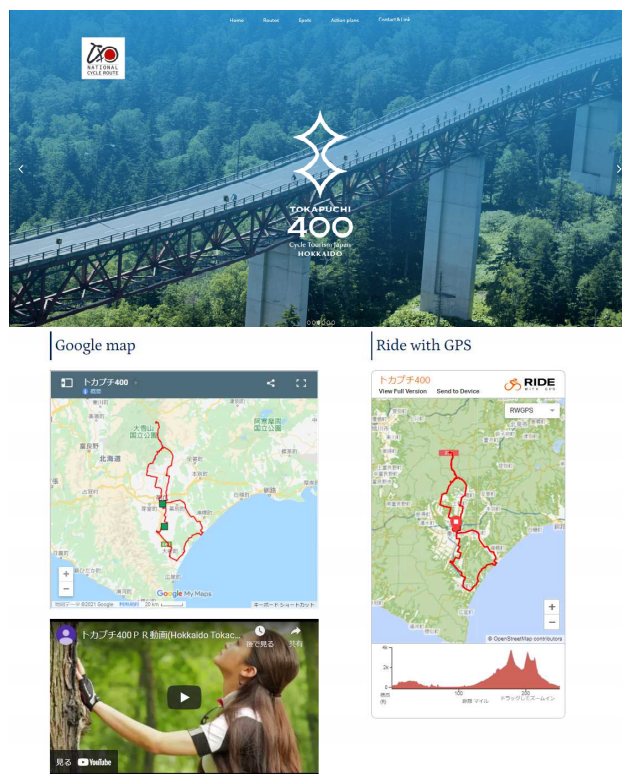


図-10 トカプチ400公式HP（抜粋）

②事業者間連携については、トカプチ400のNCR指定以前から十勝管内の各地域で事業者が様々な取組みを行っているが、NCR指定を契機に事業者間が連携を図り、「サイクリング×〇〇体験」のように地域の観光コンテンツをサイクリングで繋ぎ、トカプチ400や十勝地域の観光の魅力をより高める取組みを模索している。その第一歩として管内の各事業者がお互いを知り、連携するきっかけづくりの場として、事業者交流会・意見交換会を開催した（図-11）。この機会を経て、NCR指定をビジネスチャンスと捉えて、事業者同士が連携を図ることで、サイクルツーリズムを通じて地域振興へと繋げていくことが期待される。



図-11 事業者交流会・意見交換会の様子

③サイクルイベントの開催については、新型コロナウイルスの影響で各種イベントが中止となっている中、地域のサイクリストが中心となってウィズコロナという生活様式に対応した新たなイベントを立ち上げる動きも産まれている。NCR指定前の2020年には十勝クライムキャンプが開催された（図-12）。3人1組もしくは2人1組でグループとなり各自で事前に用意したルートを走行し、獲得標高をどれだけ稼げるか挑戦するイベントである。サイクルを通じて景観や食など十勝の魅力を発信することができる内容となっている。イベント参加者には限定サイクルキャップなどの記念品を贈呈し十勝のPRを行った。またアンケート調査を実施しており、トカプチ400や十勝地域を走行した感想などの聞き取りを行った。この調査結果を基に走行環境や受入環境、トカプチ400のPR方法の改善に繋がると考える。このイベントは2021年にも開催予定であったが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令されていたため中止となった。しかしながら、ウィズコロナという新たな生活様式が広まっていく中で屋外活動の需要が高まっていることもあり、今後上記のようなトカプチ400を活用したイベントと積極的に連携を図っていくことで十勝地域の観光の魅力をPRできると考える。



図-12 2020年十勝クライムキャンプの様子

#### 4. おわりに

研究会の発足から始まり、協議会設立と多くの関係者がサイクルツーリズムを通じた十勝の地域振興のため、同じ方向性をもって取り組んだ1つの成果として、今回のNCRの指定に繋がったと考える。しかしながら今回の指定は、協議会が目指す地域の未来へ向けてのスタートを切ったに過ぎない。

帯広開発建設部としては、これまで歴史ある十勝地域の自転車文化の中で、各自治体や事業者が独自に取り組んできたものを束ね整えた上で共有し、各関係者が十勝地域全体の取組みとして再構築できるように舵取りを行ってきた。その結果、広域行政機関としての一定の役割を果たし、こうした成果に繋がったものと考えている。今後は、この取組みを地域が主体となって永続的に行えるような仕組みにシフトしていく必要がある、そのためのサポートを考えていくことが必要と考える。

そして、地域が主体となって取り組むことができる環境や仕組みを構築できた時、十勝地域におけるサイクルツーリズムによる地域振興は更なる進展を遂げるものと期待している。

#### 参考文献

- 1) 上田 健一, 気田 堅実, 川村 達也: 十勝地域におけるサイクルツーリズム促進に向けた取組みについて, 第62回(2018年度)北海道開発技術研究発表会(2019)